

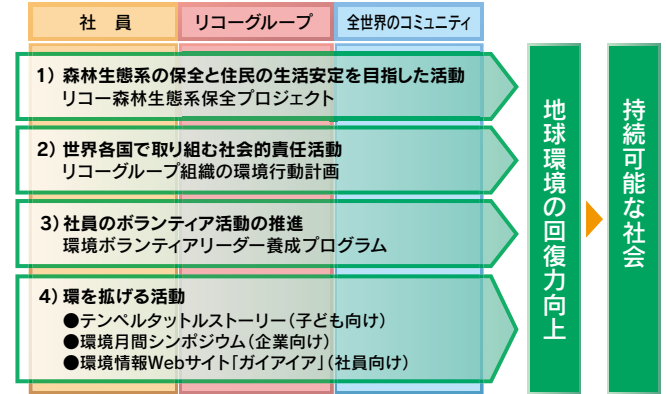
### 社会的責任活動

#### リコーグループの社会的責任活動

##### 《リコーグループ/グローバル》

リコーグループの社会的責任活動は、「森林生態系保全活動」「グループ組織の社会的責任活動」「社員のボランティア活動」「環を拡げる活動」の4つの施策から構成され、世界各地の地域コミュニティと一体となって進めています。このうち、世界各地のグループ組織が実践している社会的責任活動は、環境行動計画に掲げた生態系保全活動の目標を達成するために、グループ各社で取り組んでいます。

#### リコーグループの社会的責任活動



#### 恵那の森づくり

##### 《リコーエレメックス/日本》

リコーエレメックス (REX) の恵那事業所は、43万m<sup>2</sup>の敷地の多くが森林 (建物面積は2.3万m<sup>2</sup>) で占められています。この広大な森林で2010年度からC.W. ニコル アファンの森財団の協力を得て「恵那の森づくり」を始め、今年度から活動を本格化させています。2011年4月9日、恵那事業所のほか、REX本社、技術センター、岡崎事業所 (いずれも愛知県) から社員21名が参加し、講師の指導のもと、植生調査\*や保存する木以外の伐採を実施。伐採のポイントや道具の使い方などのコツを教わりながら、ノコギリやチェーンソーを使い、森林の整備を進めました。雨が降る中での作業開始となりましたが、天候の回復とともにピッチを上げ、予定された作業を終えました。恵那事業所の敷地は、手つかずの広大な森林と清流に囲まれ、土地固有の多様な湿生植物や鳥類が生息しています。REXでは、2010年度、これらの生き物を守り、持続可能な森づくりを進めるための知識と技術を養う観察会やワークショップを開催してきました。2011年度は、毎月の森林保全活動と年4回の生き物保全活動による森づくりを計画的に実施していきます。

\* 野外で植物群落の構成種及び被度などを調べる調査。調査を行うことで対象地域の植生を知ることが目的とする。

※ [http://www.ricoh.co.jp/ecology/history/all/2011/0409\\_01.html](http://www.ricoh.co.jp/ecology/history/all/2011/0409_01.html)



#### 『Vie & Couleurs (いのちと彩り)』活動

##### 《リコーインダストリーフランス》

欧州の生産関連会社リコーインダストリーフランス (RIF) では、環境、社会、経済の3分野における「持続可能な開発」を目指し、『Vie & Couleurs (いのちと彩り)』と名づけた活動を2009年度から行っています。『Vie & Couleurs』は、社員にとっても、植物や鳥や動物にとっても過ごしやすい環境の構築を目指した生物多様性保全の取り組みで、地元アルザスの環境保全団体 (Regional Association for Initiation into the Environment and Nature in Alsace) の協力のもと、社員ボランティアによる敷地全体の植栽や整地を行っています。取り組みの主な目的は以下の3つです。

- 1) RIF 所有の12万m<sup>2</sup>の敷地により豊かな生物多様性を実現し、アルザス地方の「緑のネットワーク」づくりに貢献する
- 2) アルザス地方の固有種を守ることにより、周辺の天然の動植物相を保全する
- 3) 社員、パートナー企業、そして広く社会に向けて、環境保全への意識向上を図る

RIFではこれまでに、敷地内にピオトープと牧草地、四季折々のさまざまな花が咲く約1,400m<sup>2</sup>の花畑を造成し、鳥のための巣箱も設置し、敷地内の植物相や鳥類のリスト作りなどを行ってきました。2010年度は生け垣作りと果樹木の植栽、さらに、持続可能なミツバチの養蜂の実現に向けた可能性調査を実施しました。また、RIFではこれらの取り組みを社会に広める目的で、社員の環境教育を実施したほか、活動の解説ビデオを制作し、外部の会議、講演会でも環境コミュニケーションを行ってき



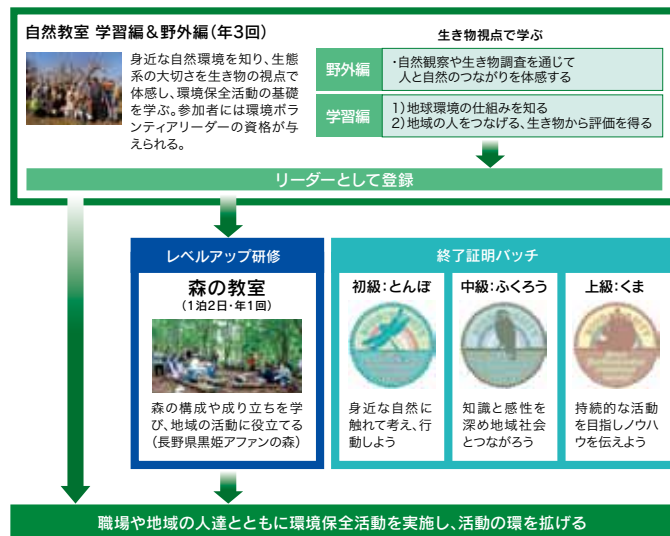
ました。これらの活動は、フランスにおける各種会議で企業の環境教育の先進例と高く評価されました。

## 環境ボランティアリーダーの活動

### 《リコーグループ/日本》

地球環境を保全するには、社員一人ひとりが地球市民としての意識をもって、自主的に社内外で活動を実践することが重要です。リコーは1999年6月から、社員を対象とする研修制度「環境ボランティアリーダー養成プログラム」をスタートさせ、2001年度にはリコーグループ社員および退職者へと対象を広げました。これまでに、500人を超える環境ボランティアリーダーを養成し、各リーダーは、それぞれの所属する部署や地域を巻き込んで、環境ボランティア活動を展開しています。彼らの活動は、社員や家族・友人との活動から地域社会へと拡がりを見せています。

### 環境ボランティアリーダー養成プログラム



## TOPIC

### リコー自然教室

#### “伝えよう!生き物との対話や体験” ボランティアリーダーの「伝える」スキルを育成。

2010年9月12日、港区立青山小学校および青山商店会連合会の協力により、リコー自然教室が開かれました。開催場所の青山小学校は、2010年2月に、自然教室・実践編として、リコーグループの環境ボランティアリーダーが子どもたちと一緒に“都会に自然を再生する”ためのピオトープづくりを行った場所で、完成後も、週1回の定点観測を続けてきました。都会のど真ん中の小さなピオトープにもかかわらず、植物だけではなく、ヒキガエルやトンボをはじめ、続々と集まってきた生き物たちがダイナミックな生態系の変化を引き起こしています。「生物多様性保全活動の環を拡げる」ためには、環境ボランティアリーダーがこうした変化や経験を自分の言葉で人に「伝える」ことが欠かせません。今回の自然教室では、生き物の視点となることで自分たちが得た気づきや感動を人に伝えるための知識と技術の習得を課題として設定しました。プログラムは、青山商店会連合会の市川氏による、青山地区で展開中の生物多様性保全活動「土地の記憶プロジェクト」の紹介から始まり、人と自然の研究所・野口氏による「失われた自然を再生するピオトープの役割と可能性」につい



「机上での説明と、生き物を前にしての説明には差がある」と参加者。



での講話の後、25名のボランティアリーダーたちが自らの体験やピオトープの役割について“伝える”ためのトレーニングやグループワークを体験しました。参加者からは、「知っていることと、説明できることは違うとわかった」「実際に説明することで、自分の理解がいつそう深まった」などの声が聞かれました。